

ノロウイルス検出キットG1/G2 -高速プローブ検出 Direct-

整理番号



作成 2018年7月5日

改訂 2021年4月1日

No.2438A

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ノロウイルス検出キットG1/G2 -高速プローブ検出 Direct-
製品コード	FIK-293
供給者の会社名称	東洋紡株式会社
住所	大阪市北区堂島浜二丁目2番8号
担当部門	バイオプロダクト営業部
電話番号	06-6348-3786
FAX番号	06-6348-3833
推奨用途及び使用上の制限	ノロウイルス核酸検出試薬(研究用)

2. 危険有害性の要約

重要危険有害性	
健康有害性	通常の状態では人の健康に対する有害な影響は小さいが、有害性に関する調査が不十分なので、取り扱いには注意する。

GHS分類

物理化学的危険性	分類できない
健康有害性	急性毒性(経口) <反応液A> 皮膚腐食性・刺激性 区分外 眼損傷・眼刺激性 区分3 眼損傷・眼刺激性 区分2B
環境有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル	<反応液A>
注意喚起語	-
危険有害性情報	警告
注意書き	軽度の皮膚刺激、眼刺激
安全対策(予防策)	取り扱い後は手をよく洗う。
応急措置(対応)	眼に入った場合:水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受ける。皮膚刺激が生じた場合は医師の診断/手当てを受ける。

<反応液B>
該当しない

ノロウイルス検出キットG1/G2 -高速プローブ検出 Direct-

整理番号



作成 2018年7月5日

改訂 2021年4月1日

No.2438A

安全データシート

3. 組成及び成分情報

化学物質/混合物

混合物

化学特性

酵素、基質等の水溶液

パーツ名

主要成分

反応液A

トリス(ヒドロキシメチル)アミノメタン

デオキシアデノシン三リン酸

デオキシシチジン三リン酸

デオキシグアノシン三リン酸

デオキシウリジン三リン酸

グリセロール

ジメチルスルホキシド

酢酸カリウム

ポリオキシエチレンソルビタンモノラウレート

添加剤A

DNAポリメラーゼ

リボヌクレアーゼ阻害剤

塩化カリウム

ウラシルDNAグリコシラーゼ

デオキシリボ核酸

エチレンジアミン四酢酸二ナトリウム

反応液B

添加剤B

CAS No.

(EC No.)

77-86-1

1927-31-7

102783-51-7

93919-41-6

102814-08-4

56-81-5

67-68-5

127-08-2

9005-64-5

有り

(EC 2.7.7.7)

-

7447-40-7

59088-21-0

-

139-33-3

有り

危険有害成分

化学名又は一般名

グリセロール

添加剤A

別名

グリセリン

-

CAS番号

56-81-5

有り

官報公示整理番号 化審法

2-242

有り

安衛法

公表

公表

含まれるパーツと濃度範囲

反応液A:13%

反応液A:2%

化学名又は一般名

ジメチルスルホキシド

添加剤B

別名

DMSO

-

CAS番号

67-68-5

有り

官報公示整理番号 化審法

2-1553

有り

安衛法

公表

公表

含まれるパーツと濃度範囲

反応液A:5%

反応液B:0.5%



安全データシート

4. 応急措置

吸入した場合	直ちに新鮮な空気のある場所に移し、気分が悪くなった場合は医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	大量の水と石鹸で洗う。汚染された衣類はすべて脱ぐ。皮膚刺激が生じた場合には医師の診断、手当てを受ける。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受ける。
飲み込んだ場合	水で口の中を洗浄し、速やかに医師の手当てを受ける。無理に吐かせない。

5. 火災時の措置

消火剤	水、二酸化炭素、泡消火剤、粉末消火剤
特有の消火方法	消火は風上から行う。
消火を行う者の保護	大規模な火災の場合は呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具、緊急時措置	眼、皮膚への接触、吸入を避ける。 作業の際には必ず保護具を着用する。風下で作業しない。
環境に対する注意事項	環境中へは直接廃棄しない。
封じ込め及び浄化方の方法及び機材	可能な限り、砂または他の不燃性吸着剤に吸着させて空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	使用時は適切な保護具を着用し、眼、皮膚、衣服に接触しないように十分注意する。
安全取扱い注意事項	取扱い場所を常に整理整頓し、清潔に保つ。
衛生対策	取扱い後は十分手を洗う。
保管	
安全な保管条件	密封容器にて-20℃±5℃で保管する。
安全な容器包装材料	本製品に使用されている容器内で保管する。



安全データシート

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 換気システムを設ける。
許容濃度

グリセロール
(ミスト)
未設定
日本産業衛生学会勧告値
ACGIH TLV 10mg/m³
OSHA PEL total dust :
15mg/m³TWA
respirable fr. :
5mg/m³TWA

保護具

呼吸用保護具 呼吸器保護具(有機ガス用防毒マスク、防じんマスク)を着用する。
手の保護具 ゴム手袋を着用する。
眼の保護具 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用する。
皮膚及び身体の保護具 必要に応じて保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観(物理的状态、形状、色) 常温で液体であり、0℃以下で固体。各パーツは無色透明。
臭い 全てのパーツで臭いはほとんどない。

pH 6.0~9.0

引火点 酵素液は水溶液のため引火性はないと考えられるが、水分蒸発後177℃の引火点を持つグリセロールおよび、89℃の引火点をもつジメチルスルホキシドが残留する。

爆発特性 常温では爆発性はない。

密度 データなし

溶解性 水に可溶

10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性 通常の条件下では安定である。

避けるべき条件 高温、直射日光、火災などによる強熱、強酸化剤、還元剤

危険有害な分解生成物 知見なし



安全データシート

11. 有害性情報

急性毒性	データなし	
局所効果	眼や皮膚の粘膜を刺激し、結膜炎などの炎症を起こす可能性がある。	
各成分の有害性情報	グリセロール	添加剤A
急性毒性	マウス経口:4090 mg/kg ラット経口:12.6 g/kg	ラット経口:50mg/kg* ラット経皮:537mg/kg*
皮膚腐食性及び刺激性	ウサギ:500 mg/24hr:Mild	知見なし
眼に対する重篤な損傷性又は刺激性	ウサギ:500 mg/24hr:Mild	知見なし
生殖毒性	知見なし	知見なし
発癌性	評価されていない	評価されていない *類似物質のデータ
急性毒性	ジメチルスルホキシド マウス経口:7920mg/kg ラット経口:14500g/kg	添加剤B ラット経口:3730mg/kg
皮膚腐食性及び刺激性	ウサギ:500mg/24hr:Mild	知見なし
眼に対する重篤な損傷性又は刺激性	ウサギ:500mg/24hr:Mild	知見なし
生殖毒性	知見なし	知見なし
発癌性	評価されていない	評価されていない

12. 環境影響情報

生態毒性	グリセロール	ジメチルスルホキシド
	魚類(ニジマス):LC50(96hr) 54g/L	魚類(ヒメダカ):LC50(96hr) 33g/L
	魚類(金魚):LC50(24hr)>5g/L	
	甲殻類(オオミジンコ): EC50(24hr)>10g/L	
	藻類(紅藻):EC50(28hr)4.6g/L	
残留性・分解性	グリセロールや酵素、基質等、良分解性である。	
生体蓄積性	生体蓄積性はないと考えられる。	
土壌中の移動性	水に対する溶解性は高いので、移動すると考えられる。	

ノロウイルス検出キットG1/G2 -高速プローブ検出 Direct-

整理番号



作成 2018年7月5日

改訂 2021年4月1日

No.2438A

安全データシート

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理委託する。

汚染容器及び包装

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連勧告の定義上の危険物に該当しない。

国内規制

輸送に関する法規制には該当しない。

輸送の特定の安全対策及び条件

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

含有する成分には下記の法規制情報がある。

	ジメチルスルホキシド	グリセロール
化審法(特定化学物質/監視化学物質)	該当しない	該当しない
化学物質管理促進法	該当しない	該当しない
労働安全衛生法	該当しない	該当しない
毒物劇物取締法	該当しない	該当しない
消防法	危険物第4類引火性液体第3石油類水溶性液体	危険物第4類引火性液体第3石油類水溶性液体
海洋汚染防止法	該当しない	施行令別表第1有害液体物質(Z類物質等)
欧州REACH規制	該当しない	該当しない

16. その他の情報

参考文献

厚生労働省 職場のあんぜんサイト <http://anzeninfo.mhlw.go.jp/>

NITE: 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 <http://www.nite.go.jp/>

制約事項

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別の取扱いをする場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。記載内容は情報提供を主目的とするものであって、保証するものではありません。